

令和2年度 大田区立大森第四小学校 自己評価 報告書

令和3年3月10日

○ 本校の概要

・昭和8年開校、今年度開校87周年目を迎える。平成26年度から校舎改築に向け基本構想・基本計画を策定。平成29年度より新校舎建設工事(第1期)開始。平成31年度新校舎(第1期)供用開始。令和2年度より第2期工事開始。  
 ・平成24・25年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定。「学び、かかわり、自己を高める子の育成(生活科・総合的な学習の時間を通して)を研究主題とし、地域を生かした学習活動を展開し、現在もスクールサポート大4と連携を図り、継続して推進している。  
 ・平成26・27年度東京都教育委員会オリンピック・パラリンピック教育推進校(研究開発校)に指定。「自己肯定感を高める指導の工夫(すずんできかわり、自己のよさを発揮できる子の育成)を研究主題とし、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催と関連を図った学習内容の開発について研究を推進した。令和元年度からは研究主題を「学習問題をすずんできわたり解決しよう」としたりし、社会的な見方・考え方を育む指導の工夫」とし、生活科・社会科「問題解決学習」を通して思考力・判断力を高める指導を行い、合わせて基礎学力の向上に取り組んでいる。  
 ・平成28年度より校舎改築を行い、平成31年4月に1期校時竣工、新校舎へ移転した。外構工事まで含めた完工は令和3年度中を予定している。

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄			
						評価(人数)	コメント		
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。	4: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	※1 今年度は新型コロナウイルス対応の臨時休校のため、6月末までに実施となる体力テストの実施は学校判断に委ねられた。工事による狭小な校庭のため、近隣校の校庭を借用して実施となること、6月が分散登校であったことから、本校では体力テストの実施を行わないこととした。 ・外国語が正式に教科となった今年度から5・6年は専科による授業とし、ALTの活用をより強化した。コロナ対策で密を避けるため、放課後の英語カフェの実施は当面見合わせている。 ・理科・総合的な学習の時間等、地域を生かしたものづくりの体験活動はこれまでも行ってきた。今後の区の教育プランへ向けての対応を始めている。 ・タブレット等ICT機器は各学級で日常的に使用しているが、台数に制限があったため、全教員が週1回以上の使用とはならなかった。今後児童1名1台が整備されるので、日常的に活用して授業を行う。 ・今年度は新型コロナウイルス対応のため、体力テストが実施できなかったが、体育指導については計画的に行い、なわとびを中心とした「一校一取組」「一学級一実践」を行っている。 ・校内研究において「問題解決型学習」に取り組み、社会科を中心として授業改善を行い、思考・判断力を育成しているが、基礎基本となる知識の定着などの課題を踏まえた授業改善を行う。	A	5	・「自ら学び考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が9割を超えています。総合的な学習の時間や問題解決型学習などの効果が大きく現れているのではないのでしょうか。自己評価は適切であると考えます。 ・校舎改築による制約、コロナによる制約、その中でできうことを実行していただき、ありがとうございます。 ・新型コロナウイルス対応や校舎改築により、例年のような取り組みが困難な中対応していただいた。 ・本年度においては、コロナの影響で学校の様子を見たい関心がなかったためコメント書きようがありません。なので、評価もすべてBとしました。 ・コロナ感染対策はかなり気を配ってやっていますね。 ・今年度は全く学校に行けていないので、評価が難しいですが、従来の評価も概ね適切でしたので、Aとさせていただきます。	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	3: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が85%以上である。						4 92.2%
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。」						
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	1: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80%未満である。						
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。							
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が95%以上である。	○	※1 学習カルテ・ステップ学習シートは区の学習状況調査の結果を基に作成するため、自己評価作成時点では未実施であった。結果を待って実施したため、今年度は実施開始時期が遅くなったため、ステップ学習シートのお知らせ回数が少なくなった。 ※2 授業改善推進プランは区の学習状況調査の結果を基に作成するため、自己評価作成時点では作成されていないため、昨年度作成したものを活用していると判断するか、今年度は作成していないため実施していないと判断するかで判断が分かれたため、このような結果となった。 ・学力の向上については継続的な課題であり、授業改善や個別指導を随時行っている。 ・「授業改善のポイント」を活用し、大田区学習効果測定を年度末に復習して学力の定着を図る。 ・補習については学校再開、分散登校終了後から放課後・土曜日ともに計画通り実施している。 ・大田区漢字検定は区の規定に従い、2・3学期に実施している。 ・大田区算数検定については東京ベージャドリルの活用の一環として学力の定着を目指して実施している。 ・コロナウイルスによる臨時休校中に学習習慣が崩れた児童が目立ち、その後の学校での授業への影響が大きい。	A	5	・個別面談や補習を通じて生徒一人一人に向き合い、丁寧に指導されていることが分かります。「毎日の勉強がわかる」と回答した児童が9割以上という結果からもこれまでの学校の取り組みが十分に評価された結果であると思えます。 ・コロナによる休校、自宅学習は、いわば毎日が夏休み状態であり、そこから学習習慣を取り戻すのは難しかったらうと想像されます。遅れを取り戻すために努力されたことと思えます。 ・校庭が十分に使えなくコロナ対策と子供たちはストレスあるでしょう。先生方大変ですががんばってください。 ・学力の定着には学校だけでなく、家庭の協力が必要だと思います。	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が90%以上である。						3 91.3%
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%以上である。						
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%未満である。						
		大田区漢字検定・大田区算数検定等を目標とした、基礎的な学力の向上を目指す指導を行う。							
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	※1 複数学年・学級が混在するたてわり班活動は、新型コロナウイルス感染防止のため通常の形では実施できず、2学期後半から密を避ける形で再開したため、行事日程の調整から従来の指標ではこのようは結果となった。 ・社会のルールや学校のきまりについては、臨時休校中に生活習慣が崩れた児童が多く、特にスマートフォンによるネットゲームを中心としたトラブルが目立ち、学校では繰り返し指導を行っているが、最終的には家庭の問題へ帰結してしまうため、継続して周知に努めている。 ・道徳の研修については道徳教育推進講師からの伝達研修は例年通り行っている。また、正式に特別の教科「道徳」となった今年度は資料を活用した授業を行うための研修も行っている。 ・学校生活調査やいじめ調査などで得られた結果にはすみやかに対応している。特にコロナウイルスによる臨時休校は児童のみならず保護者のメンタルにも大きな影響があり、問題行動や不登校にもつながるため、就学援助等の行政支援についても積極的に周知し、関係機関とも連携して対応を進めている。	A	6	・コロナ禍でたてわり班活動が実施できなかったことは、生徒や保護者にとって残念なことであったと思います。しかし、規律の徹底や道徳の授業に力を入れ、自己肯定感や生命を大切に思う気持ちを育むことのほか、保護者のメンタルへの気遣いまで、きめ細かく対応されていることが分かります。 ・たてわり班はとても良い取り組みだと思いが、コロナのために思うようにいかないようで残念です。小学生でも普通にスマホを保有する時代になってしまい、ゲームにはまってしまふとの事で、いい方策が思いつきません。 ・問題のある家庭にはいつも学校にかかわっていただいていると思いますが、関係者会議には民生委員(主任児童委員)にも声かけをお願いします。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。						4 96.7%
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。						
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。						
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。							
1～6年生の異学年集団による縦割班活動を通して、思いやりや協調性など豊かな心を育てる。									

プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を上回っている。	○	※成果指標を作成し、公表した時点での指標「東京都体力・運動能力調査」が実施できなかったため、今年度は成果指標の評価が不能となった。 ・学校評価児童アンケートの「自分から進んで運動をして、健康的な生活をしている」は昨年度より約4%向上し、約94%の児童が肯定的な評価をした。特にA評価は保護者アンケートより15%以上高く、コロナウイルス対策で制約がかかる分、意識して運動していることが伺い知れる状況であった。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」は特に臨時休校中に崩れた生活習慣を取り戻すために期間以外においても学校だよりや学年だより、ほげんだより、給食だよりなどで食育と合わせて啓発を行った。 ・運動会をはじめとする体育行事だけでなく、全校や学年が集まる行事ができないのと、工事で校庭が狭小なため、校庭や体育館の使用を学年・学級に計画的に割り当て、体を動かす機会を可能な限り設定している。 ・今年度は「体育・健康教育授業地区公開講座」の実施はコロナウイルス対応のため、実施の可否を学校判断に委ねられた。本校では学校規模から地域・保護者を交えた多人数での集会が困難なことや外部講師の招聘が難しいことから通常の形での実施を見送った。	A	4	・コロナだけでなく、工事で校庭の使用が限定される中にあっても可能な限り運動する機会を設けたり身体や心をつくという食育にも積極的に取り組まれ、自己評価は適切であると考えます。 ・校庭が使えないインドとコロナにより運動の機会が失われている。現在浦守稲荷が子供たちのたまり場になり、放課後多くの子供たちが身体を動かして遊んでいるのはいいことだ。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3: 東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均とほぼ同様である。			B	4	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2: 東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を下回っている。			C		
		校舎改築の影響を最小限にとどめるよう運動量の確保に努め、体力向上に関する授業を実施する。体育・健康教育授業地区公開講座や保護者会、学級だより等で体力づくりの重要性やその方法を地域・保護者に向けて啓発を行う。	1: 東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を大きく下回っている。			D		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	※1 今年度は新型コロナウイルス対応のため、学校公開の実施を行わないこととしたため、評価不能である。管理職による授業観察の評価を改善に生かす形となっている。 ・OJTや研修はテーマを設けて主幹・主任教諭が講師を務めて校内研修を行っている。また、各種研究発表会が紙上発表となっているため、文書の回覧等で研究成果を共有するようになっている。 ・特別支援教育は対象児童が年々増加しているため、定期的な校内委員会や臨時のケース会議を実施し、サポートルームやカウンセラー、必要に応じて関係機関と連携して対応を行っている。	A	6	・子供たちが安全・安心に学校生活を送るために、先生方が研修を通じてスキルアップを図る努力をされていること、また、特別支援教育にも力を入れて、対象児童の増加に対応されていることが分かりました。保護者評価も高く、自己評価は適切であると考えます。 ・学校公開も実施できず、いろいろな対策をとり、感染防止に努めている。 ・保護者の方々のアンケート結果が概ね良い評価となっていることは素晴らしいことと思えます。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			B	3	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1: 学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			D		
		OJT計画を基に、研修の機会を多く設定し、教職員が互いに高め合うようにする。						
プラン6 学校・家庭・地域もに家庭もに進める地域が一体となつてと	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	※1 今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、対面による会議ではなく、紙面による連絡を行っている。 ・ホームページは臨時休校中にお知らせや課題の掲載など頻繁に更新を行った。児童の日常活動の様子はその都度を更新を行っているが、緊急性のある連絡はメールに移行しており、タイムラグと相まって更新の頻度や情報の新しさが劣る。 ・スクールサーポート大四と連携し、地域学習などに協力をお願いしているが、コロナウイルス感染防止のため、直接の工場見学などこれまでと同様な形でできなくなっているものもある。その都度代替案を考えて可能なものは実施するようにしている。 ・読み聞かせは学校再開後に徐々に再開している。 ・臨時休校中に家庭学習の習慣が崩れた児童が目立ち、生活習慣の立て直しと合わせて、学年だよりで周知したり、直接保護者と連絡をしたりしている。	A	5	・地域に開かれた教育の実現という面で保護者からの評価も高く、学校側はホームページの更新や地域学習へ協力を依頼するなど、子供たちのために精一杯努めていることがうかがえます。 ・地域の行事、イベントも今年度は中止になり、子供たちも残念に思っているだろう。 ・コロナ禍により地域としては何もできず残念な一年でした。 ・コロナ禍の中、建築工事中の環境での対応に心を配られ、さぞ大変な一年だったと推察いたします。子供たちに学校行事の楽しさ、大切さを体験させてやれないことは残念なことですが、それなりに順応していく子供の姿に教えられることもありました。地域の目としてかかわれませんでした。すべてを「B」評価とさせていただきます。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			B	4	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: 学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			C		
		地域や保護者による読み聞かせ等を実施し、家庭の教育参画意欲を高める。	1: 学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			D		
		毎日家庭で(学年×10分)の学習を推奨し、取り組む。						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載